

中部企業

これで売っ

東海メディカルプロダクツ



筒井宣政社長

東海メディカルプロダクツ(愛知県春日井市、筒井宣政社長)は、心筋梗塞の患者が手術を受けるまでの応急処置に使う医療器具「IABP(大動脈内バルーンポンピング)のバルーンを拡張・収縮を1989年に、日本で初めて製品化した。徹底した品質管理と日本人の体格にあわせた幅広い品ぞろえが強みだ。

IABPカテーテルは、患者の命にかかわるため、製造現場では全数検査を実施。拡張・収縮を約5万回繰り返し、問題ない製品だけを出荷する。体格や血管の種類に

心筋梗塞向け医療器具



耐久試験を実施し合格した製品だけを出荷する(愛知県春日井市の本社工場)

品質管理・品ぞろえ強み

検査を実施。拡張・収縮を約5万回繰り返し、問題ない製品だけを出荷する。体格や血管の種類に

国内市場は推定で30億円

規模。「国内シェアはおよそ2割。国内勢の中で首位なのは間違いなく」と筒井社長は話す。創業は81年。樹脂製品

に照準を定めたという。冠動脈の治療に使うP TCA(経皮的冠動脈形成術)バルーンカテーテルや肝細胞がん治療用マ

《会社概要》

- ▽本社 愛知県春日井市田楽町1485番地
- ▽創業 1981年
- ▽社長 筒井宣政氏
- ▽売上高 30億円(2011年9月期)
- ▽従業員数 約180人
- ▽業務内容 医療器具の製造・販売

の製造会社を経営する筒井社長が「次女の心臓病を治したい」と一念発起して立ち上げた。東京女子医科大学の助言で人工心臓の開発に挑み、動物実験までこぎ着けた。しかし、バルーンカテーテルで

かし実用化には巨額の資金が必要のため断念。人脈が豊富な筒井社長は、国内企業との連携を促し、東海メディカルは製品力で対抗する。脚の血管が詰まる下肢虚血向けバルーンカテーテルなどの開発を急ぐほか、米国企業へのOEM(相手先ブランドによる生産)供給を通じて、アジアなどの海外市場も開拓していく計画だ。

医療関連育成へ横断組織を設置

中部経産局

中部経済産業局は25日、医療機器の製造や医療・介護サービスなどが一体となった新産業の育成を支援するプロジェクトチームを7月6日に発足すると発表した。局内の医療機器、サービス、人材などを担当する8課からの10人以上の人員で構成する。産業育成を目的に大規模な横断組織を設置するのは珍しい。

中部

名古屋 052-243-3321  
 岐阜 058-262-4847